

主の降誕 夜半ミサ

ルカ 2・1-14

2021.12.24

20 : 30 ミサ カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

クリスマスミサ、クリスマスと言えば、たいていの人は、真っ先に頭に思い浮かぶのがクリスマスツリー、クリスマスライト、サンタクロース、真っ白な雪、デートするカップルなどなどですね。これらは、本来のクリスマスを意味するものではありません。

神様は一人の人間として、わたしたちの中に来てくださいました。イエスがナザレでお生まれになったことは神話ではありません。本当に実在する真実です。マリアは生まれたイエス様を布にくるんで馬小屋に入れていました。

福音では、「泊まる場所がなかった」。この言葉を聞いたとき、とても悲しい気持ちになります。

今では、妊娠すると、定期的な検査、飲食の注意、適度な運動、出産病院の予約、産後ケア予約などとたくさんの検査や準備が必要です。

今日、マリア様と生まれた赤ちゃんには泊まる場所がありません。パレスチナの貧しい女性のように、辺鄙な場所で子供を産みました。そこは簡素な馬小屋、馬が泊まる場所です。

イエス様の誕生は神様が人間を愛しているしるしです。自分を弱く無力にしています。

次にわたしたちが見た背景は室内ではなく野外です。人物が変わって、羊飼いたちと天使がやって来ます。一番最初に救い主を証する人は羊飼いたちです。

なぜ彼らだと思いませんか？

彼らが十分に精神的な準備ができているわけではありません。彼らが純粋で真面目だからでもありません。なぜなら、イスラエル人の中で、羊飼いたちは不潔なものの一つに属していて、獣と暮らしています。神殿に入ることすら禁止されていました。裁判所で証言することもできません。法律で羊飼いたちを救うこともできません。

イエス様は世に下り、最も小さな人と一緒に暮らしています。彼は義人ではなく卑しい人です。イエス様が公開された生活には2種類の人があります。

一つ目：貧乏で無知な人、軽蔑されている人たちがイエス様を受け入れました。

二つ目は、知恵のある人、金持ち、権力、宮殿で生活している人、人ごみから離れています。神様が必要ありません。

今日はイエス様が生まれる日です。神様がわたしたちの中に泊まるようにお祈りしましょう。謙虚な心でイエス様を迎え、今までのわたしたちの生活を見直し、改心して、イエスに近づきましょう。